

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400294		
法人名	株式会社 建装		
事業所名	グループホームさらさの家		
所在地	島根県出雲市東福町190番地2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	平成30年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 コスモブレイン		
所在地	松江市上乃木7丁目9番16号		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周りは、田畑に囲まれ静かで季節を感じる事ができる環境にある。敷地内には農園があり、収穫したばかりの新鮮な野菜がたびたび食卓へあがり、利用者様に喜んで頂いている。近隣の小学校、中学校との交流、地域ボランティアの訪問が多い。また、例年の祭り、縁側喫茶の開催や地区のイベントへの参加を通じて積極的に地域交流を行っている。施設理念でもある「こちよく ゆったりと あなたらしく」を念頭に、利用者様のペースに合わせ、家庭的な生活を意識し、役割を発揮できるよう支援に努めている。施設内、外の研修へ参加する機会を設け、サービスの質の向上を目指している。2カ月毎に、事業所の様子を広報紙に載せ、地域へ配布している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所から丸7年を経過。一時期職員不足から定員を押しさえたり経営も難しい時期もあったようだが、派遣会社と契約して職員を派遣してもらうと同時に、業務改善を図るなど雇用の安定のために、時間をかけて取り組んできたことにより、現在は小規模の泊の定員を元に戻すことができている。新人職員の研修では指導職員を配置し、業務プログラムに添って日々レポート提出し、理念に添った具体的なアドバイスをするなど、教える側の職員の成長にも繋がる取り組みは評価が高い。施設は平坦で広い敷地の中に建っており、住宅地も近いこともあり、収穫祭などの行事は、地域の参加者と共に盛大に行われている。地域への発信を続け、小中学生等の体験や実習の受け入れなど、地道に取り組んできた成果が実を結び多くのボランティアとの交流が継続している。今後に於いても、地域に根差したサービスの拠点になるよう取り組んでいただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所に理念を掲げ、職員会議では、全員で唱和し常に意識するようにしている。また新人育成プログラムにも理念を意識できるよう取り入れている。	平成21年の立ち上げ時にスタッフで作成。どんな暮らしがしてもらいたいかを考えたもの。新人研修の中で振り返りレポートで、意識した理念として記入するようにしたり、具体的行為を取り上げて理念に繋げるように話をするようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生・中学生を始め、地域ボランティアを多く受入れ、交流する機会を設けている。地元のスーパーへ買い物に出掛けたり、地域の行事に参加している。職員が久多美のクリーン活動に参加。	地域ボランティアとの交流として、収穫祭での炊き出しや童謡や銭太鼓、月2回の定期的な体操など多くの機会を持っている。地元の小学3年生との交流会や中学生の体験、福祉専門学校の生徒の受け入れなど積極的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域商店街の振興組合協賛のイベントで、認知症予防講座を開催した。施設の取り組みとして、縁側では、認知症予防などについての資料を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2カ月に1回開催し、利用状況や行事などの報告を行い意見交換、アドバイスを貰い改善に繋げている。運営法人からも出席し、事業所内で解決できない事は、運営法人へ報告し改善を訴えていく。	家族代表者には毎回声をかけ参加を促しているがあまり多くはない。地域からは民生委員、コミセン会長、社協関係者に加え、包括や市からも参加を得て開催している。利用状況や行事の様子などを伝え、地域からの情報を得て、意見交換に繋げている	家族関係者の参加を促すと共に会議内容についても検討することで、より効果の高いものになるよう取り組んでいただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より、書類提出は直接担当者を訪問し、手渡しする事を心掛けている。訪問した際、利用状況の報告をすると共に、事業所が抱えている問題点などを相談しアドバイスを頂いている。	運営推進会議には毎回参加があり、現在の利用状況に関して助言を得たり、介護保険関連事項でわからないことがあれば、市に出向き話をするようにしており、良い関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	離床時に転倒の危険性がある利用者様は、家族の了解を得てセンサーを設置している。夜間のみ施錠の徹底に努め、日中は開放を心掛け、行きたい所へ行けるよう支援している。	夜8時から翌朝7時まで間のみ玄関の施錠をしているが、日中はいつでも出られるようにしている。外部研修に参加した職員が会議で発表する形で共有するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に原因不明でアザができた際は、ミーティングの場を設け、原因の追究、ケアの見直しを行った。施設内での研修も検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	活用できる事例がなかった。研修の案内はあったが、日程の調整ができず参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結については、入居時に管理者が計画作成担当者が、利用者、家族に説明を行い、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より利用者様との会話からヒントを得たり、家族の面会時に意見を伺っている。定期的に来所される介護相談員、ボランティアの訪問は、利用者様の意見が外部者へ表せる機会となっている。	行事の写真などの生活状況を伝える便りを2か月に1回、利用者個人の様子を伝えるものを毎月送り、意見を得るようにしている。面会時にも声がけし、意見を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の面談の機会を設け、意見や提案を必要に応じて運営に反映している。事業所内での解決が難しい場合、運営法人の福祉部へ伝え反映できるようにしている。	年1回4月に個人面談を実施している。管理者は職員の出入りの多い時期があったので、シフトのことや対人関係、業務内容に生活面も含めて意見を聞くようにしており、改善に繋がれるよう話をするようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	充実した資格手当・経験に応じた給与の等級制度を設け、職員の意欲向上に繋げている。常勤・非常勤の区別なく給与水準を均一化、勤務状況に応じた給与体系を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の職員でも安心して働けるよう、新人育成プログラムを取り入れ、個々の成長に合わせ対応している。また、資格取得をサポートしている。研修係が中心となり、施設内、外の研修に参加して。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の行事にボランティア訪問、合同の研修、実習の受入れの機会を設けている。また、近隣の事業所の地域開放日に、利用者様も含め交流に出掛けた。意見交換の機会を設け、サービス向上に活かした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	主に管理者か計画作成担当者が、可能であれば自宅を訪問し、利用者様の以前の暮らしについての情報や、家族の思いを伺い支援に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	主に管理者か計画作成担当者が、サービス導入にあたり、事前に顔を合わせる機会を設けたり、その都度、電話で相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に管理者か計画作成担当者が、アセスメントを通じて、本人、家族がどのような支援を必要としているかを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、利用者様のできる事に着目し、洗濯仕事や台所仕事を共にし、地域の習わしや行事などを教わりながら関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特変時は、その都度、家族に電話連絡し情報を共有している。毎月、写真入りの手紙や広報で報告。通院介助、衣替え、行事参加の依頼して、家族との関係も大切にしている。面会時は、一緒にお茶を飲んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事に参加、地域ボランティアの来所で馴染みの方との交流を図っている。かかりつけ医への通院、往診。自宅への外出、家族・馴染みの方の面会を勧め、関係を継続できるよう支援している。	地区の認知症予防の行事に参加したり、縁側喫茶を計画し、地域にチラシを配布し、地元の方と一緒に楽しむようにしている。理美容には馴染みの店に出かけたり、近所から来てもらったりして、地域との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士が、近くの席に座れるよう配慮している。会話が困難な利用者様には、職員が近くに座り、会話の橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、経過について家族と連絡を取り合っている。本人・家族の希望があれば再契約に向け相談に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの聞き取り調査や利用者様との日常会話から思いや希望を把握するようにした。意思疎通が困難な方は、動作や表情、しぐさを観察しながらアプローチし職員間で情報共有し本人本位のケアを検討している。	テレビのニュースや新聞などから情報を得て、出かけられる所を見つけ意向を確認するようにしている。利用開始時にはできるだけ以前の様子を聞いたり、詳しい人に項目別に記入してもらったりしてアセスメントを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴を把握するために、家族や利用者様より聞き取りを行いアセスメントシートや暮らしの情報シートに記載している。後から追加で得た情報は追記ツールがまだ不十分なため記載漏れがあり情報共有は充分ではない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	リーダーが主となり、職員の連携を図っている。また、利用者状況表を活用し情報の共有に努め、利用者様の体調管理をしている。連絡事項などは、連絡ノートを通じて休日の職員も把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が家族本人に意向を伺い介護計画を作成。ミニカンファレンスを定期的に行い、現状に即した介護計画を作成できるよう努めているが、10月より職員が入れ替わり新システム作りを検討する必要も感じている。	ミニカンファレンスでケアを振り返り、3か月に1回はモニタリングを記入している。更新時には本人と家族関係者の参加で担当者会議を実施するようにしており、現状に即した計画になるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は個人記録に記入。それに目を通すことで情報共有している。記録の仕方や記入内容も記入者によってバラバラであり評価や見直しをするのに十分な情報が集まっていないのが現状である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望で自宅へ帰られる時は、送迎のお手伝い、昼食を自宅へ届けるなどの対応をしている。また、欲しい物、足りない物がある時など、個別に買い物へ行く事もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事へ参加したり、馴染みの理美容院を利用してもらっている。コミセン活動などの情報を集めているが、個々に必要な地域資源の活用には至っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば、入居前からのかかりつけ医や医療機関への通院や往診が継続できるようにしている。家族・職員の同行での通院、往診では普段の様子や特変を職員・看護師が医師に伝えている。	本人家族の希望でかかりつけ医が継続できるようにしており、往診の方や家族対応で受診する方、職員の付き添いが必要な場合は同行して、指示を得るようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の小規模多機能と兼務で、非常勤の看護師職員2名と連携をとり、利用者様の状態を報告・相談をしながら、早急な対応が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医院である医療機関の相談員とは、普段から連絡を取り合い関係作りに努めている。入院の際は、必要な情報を提供し、退院が近くなるとカンファレンスを行い必要に応じて退院後もフォロー依頼している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重度化した場合の対応に係る指針」を入居時に説明し同意を得ている。重度化に伴い、その都度、主治医や家族と方針を話し合い、納得のいく終末期を迎えられるよう支援に取り組んでいる。	開所時から理念に繋がる考え方として、看取りに取り組んでおり、昨年1名を含め、今までに3人の看取りを行っている。職員が同じ思いを持っていることが必要と考え、今後も家族の思いに添えるよう、話し合いの機会を持ちながら取り組んでいく意向を持っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が定期的に普通救命講習を受講している。急変時に備え、消防署の協力を得てアクションカードを整備し、カードの運用に向け防災係が中心となり訓練を進めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得た訓練実施。夜間想定で消防の到着までの7分間を意識した訓練を実施。災害・侵入者対応マニュアルを整備、自治会・消防団への協力を依頼。地域の災害避難訓練に参加し意見交換をした。	地域の防災訓練に参加したり、マニュアルの整備を行ったり、施設近くの2つの自治会に火災時の避難協力をお願いしたりと、今年度は防災に力を入れてきている。地域に緊急を知らせるサイレン検討中。3月には消防署の指導のもと、地元と協力して訓練を計画。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「自分だったらどうか」「自分が言われたらどうか」の意識を新人職員へは指導し支援に繋げている。ミーティングで話し合う機会も設けた。	新人職員の場合は、ケアの中で声がけに迷った場合に助言するようにしている。相手に主導権を持って判断してもらうような声がけを意識するようになり、慣れてきた場合のほうの問題と感じている。面談時を日頃のケアの振り返りの機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が選択できるよう、飲み物・茶菓子の種類を増やしたり、自己決定できるような声掛けを意識している。できる限り添うよう心掛けているが、職員の配置上、対応が難しい事、ハード面の要望に添えない事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事前に計画していなくても、利用者様の体調を考慮し、その日の天候、新聞・ニュースの話題から外出先を決め出掛ける日のある。体操やレクなども気が向かない時は、参加してもらっていない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類を自分で選んでもらったり、髪が伸びると、馴染みの理美容院を利用し散髪してもらうなどの支援をしている。以前からお使いの化粧品が使われている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より、お茶注ぎ、食材切り、盛り付け、味見など、できる事をお願いしている。昼食会・クリスマス会では、メニューと一緒に考え調理した。旬な食材を意識し季節を楽しめる献立を意識している。外食の機会も設けている。	調理を主にした職員1名を中心に、畑で収穫した物を用いて献立を作成している。利用者のできる、皮むきや切る作業など一緒に行うようにしており、料理好きで味噌汁を作る方や洗い物を手伝う方もある。食べる時は職員が間に入り、話をしながらテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の記入、水分管理が必要な方は、摂取量を把握し、好みのコーヒー・ジュース・ゼリーなどで必要な水分量の確保に努める。食事が進まない時は、時間をずらすなど本人のペースに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の生活習慣に合せ、ホールや居室の洗面台で、義歯の洗浄、歯磨き、うがいをしてもらっている。出来ないところは、付き添いし介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な利用者様は、排泄状況を記入し情報を共有している。個々に合ったパットやオムツを検討し、その都度変更している。退院時、リハビリパットだった方も、布パンツに戻し、トイレに行きたい思いを尊重しトイレの設置をやめた。	利用者本人がどのようにしたいのか、思いに添った形をとるようにしている。布パンツ、紙パンツにパットなど合うものを検討しており、不快にならないようにしたり、パットの枚数を変えたりコスト面も意識するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用状況表で排便の有無を確認。個々に合った排便コントロールをしている。下剤だけに頼らず、食事・水分量の管理、牛乳・ヤクルト・ヨーグルト・みかんなど食品で排便を促すよう努めた。適度な運動も意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の希望を聞き、入浴してもらっている。体調に合わせて、午前から午後に変更するなどしている。男性職員が多く、希望に添えず女性職員が対応できない事もある。職員の体制により夜の入浴は、できていない。	週3回を基本とし1日3、4人のペースで入浴するようにしている。デイサービスからの利用者は午前入浴が習慣の方もあり、希望に添うようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	家で使用していた寝具を持ち込み、季節に合った物を選び使用している。利用者様の状態に応じて、夜間不眠にならない程度、日中でも臥床時間を設けている。また就寝時間は、個々の希望や体調を考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の内容がすぐに見られるよう、説明書をファイルし置いてある。誤薬・飲み忘れがないよう与薬者はサインしている。症状の変化に応じて、薬を看護師・医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事、洗濯物干し・たたみ、配りなど個々得意な事を役割としてお願いしている。気分転換のドライブがたら広報紙や、行事の案内を利用者様と一緒に配る事もある。事務所の神棚を拝まれる利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様との会話から、行きたい場所を聞き外出に繋げている。季節に応じた外出先へ出掛けたり、地域のイベントに出掛けている。また自宅や家族様のお宅に行く機会を設け、職員と家族も交流を図れている。買い物は、地元のスーパーを利用している。	天候や体調に合わせてちょっとした買い物やドライブなど、数人づつでもできるだけ外出の機会を持つようにしている。外食など費用を要する場合は計画的に行っている。施設の前に大きな畑もあり、庭に出て眺めたり、収穫したりと外気に触れる機会を増やすようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できない利用者様は、家族の了解を得て事務所金庫でお預かりしている。管理可能な利用者様は、自室にて保管され、外出時などに買い物をする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたい時は、その都度応じている。またタクシー利用を希望される利用者様には、馴染みのタクシー会社へ連絡を代行する。家族から連絡があった際は、本人に受話器を渡し会話してもらう事もあった。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールは季節の花や小物を飾り、廊下の壁には、利用者手作りの飾り物・作品・写真などを貼り、殺風景にならないように配慮している。廊下には物を置かないようにして、歩行や移動が安全に行えるよう注意している。	玄関を挟んで小規模とグループホームに分かれ廊下で繋がっておりいつでも移動できる。天井が高く、ホールからは庭が見え明るく広い空間がある。敷地も平坦で広く、前は広い畑、後ろは田畑と自然を感じられるし、住宅地とも少し距離があるため騒音もなく静かである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル配置は、利用者様の状況に応じ変更している。共用空間であっても、テーブルを分け過ごす時間、お茶・レクなどテーブルを合わせ一緒に過ごす時間もある。馴染みの利用者様同士が近くに座れるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況・生活習慣に合わせ、ベットか畳を選択でき、家具や寝具などは、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。また、使い慣れた生活用品、大切にしている思い出の写真アルバムや賞状なども同様に飾っている。	以前使っていた愛着のある物などの持ち込みを積極的に薦めている。畳の生活に慣れている場合は畳を持って来てもらっている。家族写真等を飾り落ち着けるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家具の配置を工夫し転倒予防に繋げているが、必要に応じて、センサーマットを利用している。個々でコールや呼び鈴の使用、全盲の利用者様は、時報の掛け時計で自立を図ることができている。		